

事業番号	事業名	事業概要	確定額 (千円)	事業区分
		事業実施により実現できた具体的効果・成果		重点等
	事業者名	実施地等		
		実施期間		
URL				

内5	<p>覚せい剤・大麻などの規制薬物乱用についての問題に真正面から取り組む「法中毒学」について、世界約50カ国約470名の法医学者・法中毒学者が6月3日～8日にアクトシティ浜松コンgresセンターなどに集まり、薬物乱用や化学テロなどの防止・撲滅を目指して研究発表や討論を行った。</p>		3,400	国際会議	
	<p>国際法中毒学会 (TIAFT) 第50回大会 開催事業</p> <p>1. 記念すべき第50回大会 本学会は約50年前にロンドンで発足し、毎年1回、世界各国の主要都市やリゾート地で開催されてきた。TIAFTはこの学問領域で、世界で最も権威ある学会である。今回の学会は記念すべき第50回大会であり、日本で開催できた意味は大きい。</p> <p>2. 多くの新しい乱用薬物の出現 世界中で薬物乱用は衰えるどころか、ますます猛威を奮い、万国共通の深刻な社会問題を引き起こしている。従来の覚せい剤、大麻、コカイン、モルヒネなどの規制薬物に加えて、新しい構造をもったいわゆる「デザイナードラッグ」が次から次と合成され、インターネットなどを介して世界中で乱用されている。今回の学会では、新規デザイナードラッグ類に関する演題が大変多く、活発な議論が長時間なされた。本国際会議での討論・情報交換成果により、撲滅までいかないまでも、かなりの乱用抑制を実現できるものと思われる。</p> <p>3. 化学兵器テロリズム 1994と1995年、世界で一番平和な国であるはずの日本で、サリン事件が勃発し、世界を震撼させた。そのため、基調講演とシンポジウムで化学兵器テロリズムを取り上げ、活発な議論が行われた。化学兵器テロリズムは、これからどこで起こっても不思議でない状態であり、今回の基調講演とシンポジウムの効果は大と思われる。</p> <p>4. 外国人が日本文化に触れる絶好の機会 1992年、つまり20年前に福岡市でTIAFT第30回大会が開催されたが、参加者の多くが世代交代し、若い外国人研究者が多い。日本に来たのは今回が初めての人々も多かった。去年の3月11日の大震災、著しい円高、更にはヨーロッパ経済危機のさなかにもかかわらず、250名以上(随行参加者を含む)の外国人参加者が来日してくれた。日本人を含む総参加者数は約470名であった。学術プログラム進行方法以外にも、ボランティアによるソーシャルプログラムも充実させた結果、外国人が日本人と日本文化に触れる十分な機会を提供できたと考えている。国際的相互理解と友好にも貢献できたものと確信している。</p> <p>5. 市民公開講座「薬物乱用防止：浜松ダルク開設に向けて」による市民啓発活動 TIAFTは、薬物乱用に関し、むしろ取り締まる側の立場における学術団体であるが、取り締まられる薬物乱用者・その家族の立場に立ったアプローチも大変重要である。いずれの立場も薬物乱用を防止・抑制さらには撲滅を目指しているものであり、目標は同一といえる。薬物乱用の恐ろしさを、一般市民にもっと広くさらに深く知らしめる必要がある。今回の市民公開講座では、過去に薬物乱用に陥り地獄の苦しみともいえる体験を持つお二人自身に、体験を語ってもらった。やはり、過去に利用者であったご本人の話には、聴衆への語りかけに、真実味と迫力があり、十分な効果があったように思われる。</p>				
	<p>日本法中毒学会</p>	<p>【実施地等】静岡</p> <p>【実施期間】2012/6/3～2012/6/8</p>			